



特集

南部神楽紀行・序

地域文化の伝承と発信

古来、修験者が伝えた「神楽」は時代の変化とともに、農民の手に引き継がれた。舞い、歌い、奏でる。軽快な囃子と神楽歌は昔も今も観客を魅了する。先人の熱気と感動は次代へと継承されていく。

あいな人 File_22 いちのせきを愛する人

20年間にわたり腹話術公演

藤野静枝さん

Fujino Shizue 62 大東町

ダイちゃんと共に世界へ
子供たちの笑顔に出会いたい



人形劇との出会ったのは学生時代。腹話術によるアートセラピー(芸術療法)で、心を癒やす方法と魅力を知った。「人形が話すことによって、子供たちは最高の笑顔になります。もっと定着させたい」と語る。

児童福祉施設などでボランティア公演を行う静枝さん。腹話術の主演は男の子「ダイちゃん」。永遠の7歳だ。現在の相棒3代目ダイちゃんは名古屋生まれの岩手育ち。愛くるしい瞳と物おじしない会話が特徴。これまで、国内はもとより、中国など9カ国の児童福祉施設などで公演してきた静枝さんとダイちゃん。「もっと多くの国の子供たちに笑顔を届けたい」と考えていた。

そんな矢先、あの東日本大震災が起きた。家業の中華料理店は、被災して一時休業に。震災発生から数日後、支援に訪れた名古屋市の職員が静枝さんの実家の旅館に宿泊することになった。常時20~30人の食事と身の回りの世話を実家の母博子さんと二人で行った。「目が回るほど忙しかった」と振り返る。ダイちゃんとの公演も休演した。

慌ただしいさなか、同年9月に博子さんが他界。悲しみに暮れた。だが、ダイちゃんと描いた夢を忘れられず公演を再開した。「苦しくても諦めなかった。やらずに後悔したくなかった」信念を貫いた。

今回、公演を行ったのは日本から約9,000キロ離れたクロアチアのフヴァル島とザグレブという町。震災から3年。念願がかなった。5月2日から6日まで滞在期間中、現地の児童福祉施設など4カ所で公演を行っ

た。最初は無表情だった障がいのある子供たちが、ダイちゃんが話し出すと笑顔を取り戻した。「ダイちゃんを介して、子供たちに気持ちが伝わりました」と満足げに話す。今回は、初めて長女知恵子さんと長男隆浩さんが同行。裏方として支えた。「親子の絆も再確認できました」とほほを緩める。

クロアチアの関係者から、「ぜひ来年も」とオファーがあった。「明るいニュースが少ない今、ダイちゃんと夢や笑顔を届けたい」。静枝さんとダイちゃんの二人三脚の挑戦はこれからも続く。

Profile

1952年大東町生まれ。学生時代に腹話術と出会う。中華料理店パンパンを経営する傍ら、ボランティアで腹話術の公演を行う。陸前高田市を支援する名古屋市職員の世話を実家の旅館で1年間行った。名古屋に帰った職員は「パンパン会」を結成。現在も交流が続いている。

COVER STORY

佐々木辰也さんが北海道犬本部展で念願の全国優勝



Postscript

愛犬「朋幸姫」は妻と娘の名前を一字ずつとって命名。普段はチロと呼び可愛がっている。

弥栄の佐々木辰也さん(62)が所有する北海道犬「朋幸姫」は天然記念物北海道犬協会主催の第97回本部展覧会で雌組全国優勝に輝きました。北海道犬は狩猟犬として飼育されてきた日本犬種。展覧会は雄雌それぞれ稚犬、仔犬、幼犬、若犬、壮犬、成犬第一、成犬第二、シニアと、年齢別8部門に分かれて行われます。飼い主は会場内を犬と共に周回。犬の

立ち姿、目の形、気迫といった基準で比較審査を行い、各部門のトップから「全犬優勝」を選抜します。「毎日、(犬の)食事の世話や体調管理を行います。骨は折れるがやりがいを感じます。家族の支えがあつてこそその受賞でした」と佐々木さん。飼育歴27年。悲願の末につかんだ日本一。「次は雄雌ダブル優勝を狙いたいです」と意気込みます。

神楽の歴史は古い。

「天照大神が岩の奥に隠れ、世の中は真っ暗になった。神々が協力して外に連れ出し、再び世の中は明るくなった。そのとき、鶏たちが狂喜乱舞した」という神話がある。神楽の演目の一つ、鶏舞は、その様子を表現している。

南部神楽は、民間で行われる里神楽の一種。岩手県南や宮城県北で神楽といえば南部神楽を指すことが多い。それだけ身近な芸能でもある。

神楽は、色とりどりの衣装を着て踊る「舞い手」と、楽器を演奏する「はやし方」に分けられる。踊りながら歌うようなせりふを言う舞い手に対し、太鼓、手平鉦をたたくはやし方は、舞い手を導き、引き立てる。

演目は、祭礼などで奉納される「式舞」と式舞を除く全ての演目「劇舞」がある。劇舞は、神話や伝説だけでなく、漫才のような「道化」と呼ばれるユーモラスなものまで、バラエティー豊か。演劇性が高く、庶民の娯楽としても楽しまれてきた。

南部神楽は古来より、地域に伝わる芸能としての側面と、豊作を願うなど儀式としての側面も併せ持ってきた。明るさ、涙もろさ、泥臭さなどが融合し、独特のスタイルを確立していることも、特徴の一つだ。